

地域の絆を大切に ゆたかの家の活動



豊支部古 敏行総代

毎年11月3日に、地域の南商店街の文化祭に、俳句・書道・絵手紙の作品の展示とクラブの紹介で参加しています。その中で組合員が増えました。また品川区高齢者俳句大会へ出品した作品が金賞を受賞しました。

次に「竹こまの会」です。この会の名前ですが、お年寄りが竹の棒を足で踏んで、健康で楽しい開基で、お孫さんと交流をする会、つまり竹の棒の「竹」、開基の「ご」、お孫さんの「ま」です。



ゆたかの家の書道作品

月に2回、地域の児童センターで開催して交流しています。一昨年は東京都の開基大会有段者の部で5位入賞をしました。今年も品川区の子ども開基大会で準優勝しました。また別の大会では小学生・級位者の部で戸越台小学校5年生の男の子が優勝しました。

が優勝しました。そして、品川区の平和と戦争展(8月9日)、大井町駅前(イトーヨーカ堂にて開催)に書道で参加。今年で3回目ですが、一昨年は憲法前文、昨年は柴田とよさんの詩集の一文をそれぞれ書き出品。今年も復興、明日に向かっ進む、などの作品を出品します(この作品は本総代会で展示されました)。

最後に、ゆたか診療所が来年移転新築されます。ゆたかの家も新診療所の3階に地域開放室として新診療所に移転します。エレベーターも設置されるので、より多くの方々に利用していただきたいと思っています。

安心してくらする 池上をつくる



池上支部伊藤貴三乃総代

池上地域で保健生協中央池上支部と新婦人の「みのり班介護サークル」が共同で「池上の高齢者介護を考える会」として活動しています。

まず、この1年の活動の中で、老後をどのようにくらすしていくのか、など話し合いを重ねています。この池上地域の実態を知り、要求をくみとって、運動を広げたいと、アンケートをとっています。組合員のお宅を昨年からです順次3回訪問し、アンケートを18件回収しました。対話を深めているので時間はかかっています。

その中でいろいろ見えてきました。商売をやりながら高齢の両親の世話をしている会員は、その大変さやショートステイの手続きに時間がかかりすぎると不満も漏らしていました。またひとり暮らしで日常的に不安を抱えている高齢者もいます。会員の中には今とは何かと生活しているが、年を重ねることに不安は募ってくる、と将来を心配していました。

私たちは、この2、3年で高齢者施設を3カ所見学してきました。老後のくらしのさまざまな形態を見たいと、大田区に住んでいた人たちがグループ・リビングを実践している千葉県「神崎共生のすまい」に見学を計画しています。

生協の活動では、2月と5月に支部として会議を行い、新しい班会を開くことができました。きっかけは、高齢者介護の会の活動の中でもっと地域のつながりを活発化したいとの思いが深まったことからでした。これからは生協の班会を活発化して、地域の人たちとのつながりを強め、安心してくらする池上をつくりたいと、無理をしないでがんばっています。

大森糞谷支部の 支部総会



大森糞谷支部石川 八郎さん

毎年4月に支部総会を開催して今年で7回目を迎えました。総会では、支部の活動報告、班会報告、大田病院・大森中診療所・大田歯科など支部の地域に

ある院所からの報告、組合員からの質問や意見などを出してもらっています。

支部では、夏に「なかしんまつり」を行っています。毎年7月の第3土曜日に大森中診療所の裏の公園で、子どもたちへのサービスとして行っています。ポップコーンやかき氷・綿菓子などを無料で提供しています。会場では血圧・体脂肪測定、健康相談などの健康チェックも行っています。

11月の第2土曜日に「なかしんバザー」を開催していて、支部の組合員に協力してもらってバザーの品物を提供してもらいます。その売り上げで「なかしんまつり」を開催しています。また新春のつどいや男の料理教室(年2回)も行っています。

無料の青空健康相談会を梅屋敷東通り商店街で毎月第3土曜日に、コモディイイタ東糞谷店の駐輪場で年4回、それぞれ開催しています。

総会では各班から前年度の活動状況を、各院所からは状況報告とこれからのとりくみなどを報告してもらっています。

組合員からは、自分自身の病気のことで、健康のこと、院所への要望などを出してもらっています。

支援の気持ちを 届ける



大森西北支部広瀬 正一総代

東日本大震災の翌日に蒲田駅頭で、支援のためJMIU大田地域支部を中心に、カンパ活動をしようということになりま

した。その時、ある方がカンパで封筒を渡してくれました。中を開けると50万円入っていました。その方は私たちに名を告げませんでした。習いにも別のところ50万円、その習いにも40万円のカンパをしてくださったようです。おそらく被災された方々のためになればと、そのようなカンパをしてくださったんだと思います。

さらに支援の輪を広げようというので、昨年7月と今年5月、区民のみなさんにも広く呼びかけて、蒲田の新宿小学校で復興支援のつどいを開催しました。1000人以上の方が来場され、多くの方々が被災地支援のため、現地の野菜やお酒を販売して、その売り上げを支援に充て、みなさんの気持ちを届けることができました。

そして、5月20日には気仙沼と陸前高田に支援に行きました。気仙沼の民商の方にお願ひして、仮設住宅に避難されている方々に募金をお渡しして、懇談をしました。三ツ木診療所歯科の吉田先生も同行されていたので、歯科検診や血圧測定などの健康チェックを行いました。「家族バラバラにされてさみしい、いずれこの仮設住宅を出なければならぬし、家を建てる目処も立っていない、どうしたらいいのかわからないけれど、みなさんのあたたかい支援で、生きる糧をいただきたいです」とおっしゃっていました。

まだまだ力は小さいですが、そういう気持ちを届けるという点ではみなさんの日頃からの健康とこの力を発揮されているのではないかと思います。

結成30年、城南ドルフィン



城南ドルフィン運営委員長馬島 知子さん

城南ドルフィン運営委員長の馬島です。ドルフィンは昨年12月に結成30周年を迎えました。ぜんそく治療の一環としてはじまったドルフィンは、現在、誰でも入れる健康づくりのチームになり、4歳〜80歳まで会員数は現在約1500人です。

プールという環境で、また150人の会員がいる中で、運営委員長として一番あってほしいことは「事故」です。定例の練習会はもちろんですが、ドルフィンは年間通してさまざまな行事を行っていますし、また4歳の子や、障がいをもった子どもたちのクラスもあるので「事故を起こさない」万全の準備と態勢が必要です。

毎年行っている「海の合宿」は「海」で70人が過越し、遠泳も行います。成功させようという情熱も大切ですが「準備」「知識」「指導法」などが問われます。幸いドルフィンの30年間で命にかかわる大きな事故はありません。

今日は、ドルフィンから仲間がこの総会に参加しています。現在ドルフィンの最高齢、金曜大人水中ウォーキングクラスの会員、80歳の西さんです。火曜コースに4歳のお子さんと、小学校1年生のお子さんを預けている西尾さん、金曜コースに親子3人で通っている広瀬さんです。広瀬さんはドルフィンとのつながりから、昨年の震災

後、看護師としての想いから坂総合病院に支援に行きました。金曜「なかよしクラス」にお子さんを預けている川村さん。すずらのヘルパーをしながらサブコーチをしている倉茂さんです。

30年を節目に、ますます充実し、活発なドルフィンにしていきたいと思っています。医療生協の「健康づくり」の意義や「子育て支援」はもちろんのこと、「生協の運動」に会員一人ひとりが積極的に参加していけるようになっていくことが課題です。

海岸八潮支部からの 要望



海岸八潮支部森田 宗親総代

海岸八潮支部では5月と6月の運営委員会で、生協の活動方針について検討いたしました。その中で、生協は大田区に2カ所のグループホームを持っています。しかし、品川区には一つもありません。

そこで私たちは、運営委員会として以前からこの地域に診療所をつくらうとしています。ぜひとも何らかの施設、例えばヘルパーステーションや看護師が常駐できるような施設をつくってほしいと思っています。

この他、生活保護の申請の相談などたくさんあります。今後の課題ですが、この相談会を地域に、他の診療所へ広げていきたいと思っています。やはり相談に来た方をそのままにしない、それが城南保健生協の活動ではないかと思っています。

かの拠点となる施設をつくっていただきたいと思っています。「よひすなごりせ」

相談「活動から



常務理事前澤 淑子さん

1カ月で20件前後の相談があります。65歳以上の方の相談が65%で、このあたりに高齢者の誰に相談すればいいのかわからない、相談相手がない、そんな状況があると思います。特徴的な事例を紹介します。12月の寒い時「風邪を引いて診療所にかかったけれど、短期の保険証が期限切れで、全額自己負担になってしまったので何とかしてほしい」との相談でした。

それで「一会社の健康保険はどうなのか？」と聞くと、その方は「生活のために、今現金がほしいし、保険に入っている余裕はないんです」ということで短期の保険証でつなげていました。すぐ手持ちのお金を聞いて、「とりあえずそのお金で、また短期の保険証を発行してもらってください」とアドバイスしました。そして、ご自身で電話をしてくれたいと言ったらすぐ発行してくれると言ってくれました」と、とても明るい顔で答えてくれました。

今後は課題ですが、この相談会を地域に、他の診療所へ広げていきたいと思っています。やはり相談に来た方をそのままにしない、それが城南保健生協の活動ではないかと思っています。